

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 13

千葉県立磯辺高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

本校における学校生活に明確な意欲を有し、中学校生活全般にわたり積極的に取り組んできた者で、次のア又はイのいずれかに該当する生徒

ア 人物・学習成績が優秀である者

イ 学習成績が良好で、特別活動・部活動等において顕著な実績、又は優れた資質を有し、入学後本校において積極的に活動する意思のある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の成績を資料とする。
(2) 調査書	全教科の評定を含む記載事項を資料とする。
(3) 面接	受検者6名・評価者2名の集団面接 検査時間：1グループ15分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の得点の合計500点満点で評価する。
個々の教科の得点	30点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、イ及びエについて加点(上限45点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤の者は加点する。 学年の欠席が30日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が2個以下の場合、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	生徒会活動、部活動等において優れた活動実績がある場合は、加点する。取得した資格等がある場合は、加点する。
オ 総合所見	記載内容について、特に優れた内容を参考とする。

(3) 面接

2名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)、b(標準的である)、c(問題がある)の3段階で評価する。

aを3点、bを2点、cを1点とし、2名の評価者の評価(各9点満点)を合計し、得点化する。[18点満点] 評価cが1個以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機 高校生活への意欲	志望の動機が明確である。 高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・特別活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
イ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、分かりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
ウ 身だしなみ・態度	基本的な面接作法が身に付いている。 身だしなみが整えられている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

ア 「学力検査の成績」と「調査書の得点」の合計により順位をつけたとき、次のパーセント以内にある者は、入学許可候補者として内定する。

(ア) 受検者数が予定人員以内のときは、受検者数の80パーセント

(イ) 受検者数が予定人員を超えるときは、予定人員の80パーセント

ただし、学力検査の個々の教科の得点、調査書の教科の学習の記録、出欠の記録、行動の記録及び第2日の検査（面接）の結果等に問題となる点がないこと。

イ 上記アで決まらなかった者については、「学力検査の成績」と「調査書の得点」の合計に「第2日の検査(面接)の得点」を加えた「総得点」で順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の 成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定(算式1)	加点	面接	
500点	(135+ α -m)点	45点	18点	(698+ α -m)点

(算式1) α : 県が定める評定合計の標準値95

m : 当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜のための資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日目の検査終了後、別途個人面談を行う。